

きょうの人

人道活動「日本はピースメーカー」



世界各地に埋められた地雷から、住民を守り続ける現地的女性たちがいる。「彼女たちの存在を忘れてはいけない」と訴える。

地雷除去などの取り組みを支援する国連地雷対策サービス部（UNMAS）のトップ。「地雷除去に取り組む女性たち」をテーマとする写真展が、上智大

国連地雷対策サービス部部长

アニエス・マカイユさん(55)

学（東京・四谷）で始まったのを機に来日した。

人間を無差別に殺傷し続け、復興と開発を阻む地雷。UNMASがリビアなどで行う「人道的地雷除去プログラム」では、女性たちは住民に、地雷が残る地区での安全な暮らし方を教え、地雷の被害者を支援する。

南スーダンでは地雷除去を担当する女性もいる。紛争による負傷などで男性が働けない中、就労意欲を持つ女性が訓練を受け、職を得て収入を手にする。「女性が尊厳を持ち続けられるようにすること」も重要な任務と位置づける。

日本はUNMASの活動を支える世界最大の資金拠出国だ。

「日本は人道活動や人間の安全保障の推進を通じたピースメーカー」と高く評価する。

フランス東部ブルゴーニュ出身。弁護士になり、25歳の時に国連勤務のためニューヨークへ。「英語が苦手だったから、いつも部屋の片隅にいた」が、軍縮担当事務次長になる直前の明石康氏に引き上げられた。「彼は私に責任を与えてくれた」と振り返る。

抱えるスタッフは国連本部、現場の地雷除去従事者ら約1万8千人。巨大組織を束ねる身だ。「あらゆる女性指導者の自伝に目を通すの」と笑う。写真展は今月13日まで。

（田北真樹子、写真も）